

令和5年度 スマート農業機械現地検討会

○自動操舵システムについて

- ・ハンドルを自動制御し、設定された経路を自動走行
- ・トラクタ、田植え機、コンバイン等に後付けで使用可能
- ・自動で施肥量をコントロール可能な製品も存在

【使用感】

- ・作業の重複幅を減らすことで作業時間が減少する。
※3mのロータリー幅で、自動操舵2.9mに設定

【質疑応答】

Q 直進だけでなく、旋回も自動操舵が可能なのか？

→ 導入機種は、旋回が自動でできる。ハンドル操作は不要でペダル操作のみで速度等のコントロールを行う。

○レーザーレベラーについて

- ・自動制御により簡易にほ場の水平平均作業が可能
- ・大区画ほ場や畦畔除去後のほ場の段差を解消することができる
- ・水稻の代かき作業の効率化につながる
- ・より高精度な作業が行えるGPSレベラーもある

【使用感】

- ・直装式の3m幅を導入。4m幅以上は、ほ場の規模や取扱いの観点から導入が難しい
- ・湿田では100mで約2cmの高低差を設定。
- ・検討会ほ場の45aの作業時間は、経験が浅い者で120分、熟練者は90分程度。
- ・スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の防除効果もある。

【質疑応答】

Q けん引式でなく、直装式を導入した理由は？

→ 直装式はバックでの作業も可能なため、ほ場の隅も作業できる。

けん引式は前進のみでの作業なため、隅の作業ができないが、直装式に比べ小型なトラクタでも利用可能。

※次ページに続く

○自動給水装置について

- ・ほ場の水位等を各種センサーで自動測定し、スマートフォン等でいつでも確認が可能
- ・給水口等の遠隔操作や設定値に基づく自動制御が可能な製品もある

【使用感】

- ・レーザーレベルと組み合わせた活用で、より精密な浅水管理が可能となり、分けつ数が増加。苗や肥料等の削減ができ、1年で採算がとれる見込み。

【質疑応答】

Q 自動給水装置を導入した一番のメリットは？

→ 複数の地区に農地を所有しているので、ほ場の見回り作業が大幅に減ったことは助かっている。

※定期的な観察は必須。